科目名			担当教員	
精神保健福祉援助演習Ｂ			小野　芳秀　ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CW4158	2	1	SR (講義)	３年以上
履修登録条件		「精保演習Ａ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※社会福祉学科で精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが受講できる科目です。

※実習受講者のスクーリングは、下記のとおり「精保実習指導Ａ」との組み合わせにより開講されます。実習免除者は、「精保演習Ｂ」のみの２日間８コマで開講されます（実習免除者向けの演習は、年１回のみの開講となりますので、日程調整にご注意ください）。

■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ

◆実習受講者（精保演習Ｂ：８コマ・精保実習指導Ａ：８コマ）

【精保実習Ａ事後指導までの流れ】

精保実習Ａ事前指導（精保演習Ｂ−１＋精保実習指導Ａ−１＋現場体験学習）

※精保実習Ａ受講年度の６月頃開講

１日め　精保実習指導Ａ−１（３コマ）＋精保演習Ｂ−１（１コマ）※現場体験学習の振り返り

２日め　精保演習Ｂ−１（４コマ）

↓

精保実習Ａ（福祉施設実習）

※8／1～12／25 の期間に 16 日間かつ 120 時間

↓

精保実習Ａ事後指導（精保演習Ｂ−２＋精保実習指導Ａ−２）

※精保実習Ａ受講年度の１月頃開講

１日め　精保実習指導Ａ−２（４コマ）＋ガイダンス

２日め　精保実習指導Ａ−２（１コマ）＋精保演習Ｂ−２（３コマ）

◆実習免除者（精保演習Ｂ：８コマ）

※2 月頃開講

１日め　精保演習Ｂ（４コマ）

２日め　精保演習Ｂ（４コマ）

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉士は医療と福祉をつなぐソーシャルワーカーといわれています。したがって、「つなぐ」ことが大切な業務となります。精神障害を抱えた方から見れば障害を抱えることにより生じる生活上の困難は、精神科医療機関

などの受診で解決するわけではありません。医療と福祉の問題は繋がっており、連続的な対応が必要となります。本演習のテーマは精神障害を抱えた方を生活者としてとらえ、支援・援助するために「つなぐ」ことを中心に学びます。

授業では、記録のあり方、援助過程に沿った事例展開の共通内容を概説し、相談援助過程の実技指導、情報の収集・整理・伝達、課題別事例（社会的排除）についてグループワーク、ロールプレイを用い解説します。

■到達目標

１）自己評価と第三者の評価を理解できる。
２）事例を用いたグループワークの実践をとおして、相談援助の過程を理解して説明できる。
３）退院支援における過程が理解でき、地域資源との連携方法、必要性を説明できる。
４）地域支援において必要なことを理解して説明できる。
５）家族システムを説明できる。
６）デイケアの役割、精神保健福祉士の役割、グループダイナミクスについて理解して説明できる。
７）精神障害者の就労支援の理解、雇用の実態について理解できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目の評価基準・単位の認定方法

演習内容（80%）+ 演習レポート（20%）
※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保演習Ａ・Ｃ」と共通）
精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉士養成セミナー7 精神保健福祉援助演習［基礎］［専門］〈第６版〉』へるす出版、2017 年（改訂新版でも可）
（最近の教科書変更時期）2017 年４月
※「精保演習Ａ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。
（スクーリング時の教科書）資料配付・提示のほかに、上記教科書を使用する場合があります。

【参考図書】

１）一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新 精神保健福祉士養成講座 7　ソーシャルワーク演習（精神専門）』中央法規出版、2021 年
２）福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 7　ソーシャルワーク演習（精神専門）』弘文堂、2022 年
３）井上英晴著『福祉コミュニティ論（改訂）』小林出版、2004 年
４）田中英樹著『精神障害者の地域生活支援』中央法規、2001 年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- この科目は、スクーリングの受講が必須となります（仙台でのみ開講）。
- 1 クラス 20 人以内の少人数で開講します。
- 受講料は 10,000 円となります。
- 受講許可証（メール）・納入依頼書は、各受講判定日以降に発送します。
- スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- 申込方法は、学生専用『ポータルサイト』または『With』でご案内します。
- クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- 申込締切後の受講日程の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。
- 「精保演習 B」または「精神保健福祉援助実習 A」が不合格となった場合、当年度の「精神保健福祉援助実習 B」の申込みは無効となります。

■スクーリング受講条件

【実習受講者】「精保演習Ｂ－1＋実習指導Ａ－1」（実習Ａ事前指導）スクーリング

【実習免除者】「精保演習Ｂ」（実習免除者用）スクーリング

※最新の受講条件は、申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』でご確認ください。

①受講 1 カ月前の指定期日までに達成

・「精神保健福祉援助演習Ｂ」1 単位めレポートの提出

②受講当日に提出

・『精神保健福祉援助実習Ａ課題ノート』

③受講 1 カ月後の指定期日までに達成（実習免除者のみ※）

・「精神保健福祉援助演習Ｂ」2 単位めレポートの提出

※実習受講者は、「精保演習Ｂ－2＋実習指導Ａ－2」（実習Ａ事後指導）スクーリング受講後の指定期日までに提出

■スクーリング受講・単位認定について

※実習受講・免除者すべてに適用

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイなどを予定しており、積極的な参加が求められます。

「精保演習 B」の受講内容・成績および必要に応じて実施される面接など（実習履修者のみ対象）によって評価ならびに次年度実習受講の可否が判定されます。

●単位認定

1 単位めレポート＋「精保演習 B」スクーリング（スクーリング試験は実施しません）＋ 2 単位めレポートなどで総合的に単位認定いたします（前項「■科目評価基準」参照）。

２単位めレポートが再提出の場合は、再提出評価となったレポート到着後、指示された期日までに再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、２単位めレポートの提出締め切り後に郵送またはメールで行います。

スクーリングを欠席・不合格の場合、合格済みの１単位めレポートは無効となります。次回以降の「精保演習Ｂ」を申込む際は、所定の期日までに再度「精保演習Ｂ」の１単位めレポートの提出を行ってください。

■実習選考試験・補講演習について

・実習選考試験→『学習の手引き』３章「実習選考試験（実習受講者のみ対象）」参照

・補講演習→『学習の手引き』３章「補講演習」参照

■現場体験学習の実施について

スクーリング時に、実際の障害福祉サービス事業所において現場体験学習を実施します。

■スクーリングで学んでほしいこと

演習Ａにおいて学んだことをその後どれだけ自分が身につけているかの自己評価と他者からの評価を真摯に受けとめ、対人援助を行っていく上での自己の適性の再確認をしてほしい。

相談援助に必要な専門的知識と技術をしっかりと理解し、実習において活用できるところまで到達してほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
１	オリエンテーション	オリエンテーションおよび「精保演習Ａ」の振り返り
２	専門的知識と技術の理解①	グループワーク、ロールプレイを用いた相談援助の過程を想定した実技指導（インテーク〔受理面接〕から終結およびアフターケアまで）
３	実習受講者：現場体験学習事後演習 実習免除者：実践現場の課題理解	障害福祉サービス事業所への現場体験学習を踏まえた振り返り指導 実践現場における課題の共有・理解
４	専門的知識と技術の理解②	課題別事例（社会的排除・退院支援・地域移行）についてグループワーク、ロールプレイ
５	専門的知識と技術の理解③	課題別事例（地域生活支援）についてグループワーク、ロールプレイ
６	専門的知識と技術の理解④	課題別事例（児童虐待・嗜癖問題）についてグループワーク、ロールプレイ
７	専門的知識と技術の理解⑤	課題別事例（就労・雇用）についてグループワーク、ロールプレイ
８	専門的知識と技術の理解⑥	課題別事例（精神科デイケア）についてグループワーク、ロールプレイ

※実際のスクーリングは下記①～③の流れの通り「精保演習Ｂ」と「精保実習指導Ａ」を組み合わせて開講する（前項「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ」参照）。

※実習履修者は、クラスによって 2）・ 3）の受講順序が入れ替わります。

①精保実習Ａ事前指導（「精保演習Ｂ－1＋実習指導Ａ－1」）２日間

↓

②精保実習Ａ（福祉施設実習）

↓

③精保実習Ａ事後指導（「精保演習Ｂ－2＋実習指導Ａ－2」）２日間

※精保実習Ａ事前指導（「精保演習Ｂ－1＋実習指導Ａ－1」）の１日めに「現場体験学習」、精保実習Ａ事後指導（「精保演習Ｂ－2＋実習指導Ａ－2」）において必要に応じて面接などを実施する。

※担当教員により上記各コマの内容および「精保実習指導Ａ」と組み合わせるテーマが異なる場合がある。

※実習免除者（「精保演習Ｂ」：８コマ）

１日め「精保演習Ｂ（４コマ）」＋2 日め「精保演習Ｂ（４コマ）」

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、必要に応じて板書やＩＣＴの活用、資料配付などを行う。

■スクーリング　評価基準

演習内容（80%）＋演習レポート（20%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

【実習受講者・実習免除者共通】

①次項「■在宅学習 15 のポイント」から予習しておくこと（前項「■講義内容」の各テーマに対応する「■在宅学習 15 のポイント」は次表を参照）。

テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）	テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）
１）	1	５）	７・12
２）	2・3・4	６）	９・10
３）	実習受講者：就労継続支援施設を中心に精神障害者を対象とした社会福祉施設について調べておく。 実習免除者：自身の現場経験における課題をまとめる。 ※いずれも方法は任意。	７）	６・７・15
４）	5・6	８）	14

②「精神保健福祉援助演習Ｂ」１単位めレポートを作成し、期日までに提出する。

③『精神保健福祉援助実習Ａ課題ノート』を所定の部分まで完成させ、演習当日に持参し提出する。

④所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める科目の学習を終えていること（申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』参照）。

【実習受講者のみ】

精保実習Ａ事前指導

①「精神保健福祉援助実習Ａ計画（案）」【様式 4】を演習受講日ごとに定められた期日までに提出（「精保実習Ａ」受講者のみ）し、最低 1 回の添削指導を受けてから受講に臨むこと（本冊子「精保実習指導Ａ」「■レポート課題」、『試験・スクーリング情報ブック』の各演習・実習指導課題の期日を参照）。

②実習先などに提出する「実習生個人票」【様式 6】、「健康診断書」【様式 7】、「誓約書」【様式 8】、「実習機関への交通手段」【様式 9】、「実習先から配慮を希望する内容」【様式 10】（任意）の書類を完成させ、演習当日に持参し提出すること。

※冊子ならびに各様式は、「精保演習Ｂ－1＋実習指導Ａ－1」ならびに「精保演習Ｂ（実習免除者用）」受講申込後にそれぞれ別途配付。

精保実習Ａ事後指導

①「精保実習Ａ事後レポート」を作成し、演習受講日ごとに定められた期日までに提出（『試験・スクーリング情報ブック』の各演習・実習指導課題の期日を参照）。

②『精神保健福祉援助実習Ａ課題ノート』をすべて完成させ、演習当日に持参し提出する。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

【実習受講者・実習免除者共通】

「精神保健福祉援助演習Ｂ」2 単位めレポートを作成し、期日までに提出する。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	事例を活用した演習の実践に向けて （実践編　序章Ⅰ～Ⅳ）	演習におけるグループ討論、ロールプレイ、記録と評価の技能や事例検討に必要な基礎知識について理解する。 キーワード：グループ討論、ロールプレイ、記録・評価、日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）、医療保護入院、保護者制度の廃止	教科書の練習事例について、手順に沿って取り組み、事例を理解する上で必要な知識（医療保護入院、日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業））の必要性について理解し、他の精神保健福祉関連領域の教科書などを用いて精神科病院への入院形態、諸制度・サービスについて整理する。
2	援助過程に沿った事例展開の実際「インテーク～プランニング」 （実践編　第 1 章Ⅰ・Ⅱ）	援助の展開におけるインテーク～契約～アセスメント～プランニングまでの具体的な流れを理解する。 キーワード：インテーク、契約、アセスメント、プランニング	教科書の事例の展開について「インテーク・契約」から「アセスメント・プランニング」までの展開について整理する。
3	援助過程に沿った事例 展 開の実 際「支援の実施・振り返り（モニタリング）」	援助の展開における支援の実施～振り返り（モニタリング）～サービス等利用計画の変更までの具体的な流れを理解する。	教科書の事例の展開について「支援の実施」から「振り返り（モニタリング）」「サービス等利用計画の変更」までの展開について整理する。事例において自信を回復した A さんの状態について援助の目的と併せて考察する。

	(実践編　第１章Ⅲ)	キーワード：支援の実施、相談主訴の明確化、振り返り（モニタリング）、サービス等利用計画の変更	
4	援助過程に沿った事例展開の実際「終結・支援評価・アフターケア」 (実践編　第１章Ⅳ)	援助の展開における終結～支援評価～アフターケアまでの具体的な流れを理解する。 キーワード：終結、支援評価、アフターケア	教科書の事例の展開について「終結」から「支援評価」「アフターケア」までの展開について整理する。事例において「最後は私が決めます」といって自分の人生を歩んでいるＡさんはどのような状態にあるか考察する。
5	社会的排除（偏見・差別） (実践編　第２章A)	偏見・差別の意味について精神障害者に対する社会的排除（偏見・差別）について理解する。 キーワード：偏見・差別、「生活のしづらさ」、精神保健福祉法	偏見・差別の意味についておさえた上で、教科書の事例から、精神障害者の「生活のしづらさ」、生活上の不安や思いについて整理する。
6	退院支援・地域移行 (実践編　第２章B)	退院支援・地域移行について理解する。 キーワード：社会的入院者、ピアサポート、グループホーム、地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）	教科書のサービス・制度を理解した上で、教科書の事例から、退院支援、地域移行支援の意義と支援の展開について整理する。なお地域移行支援計画、サービス等利用計画については「精神保健福祉援助演習Ｃ」の第１回在宅学習のポイントで扱う。
7	地域生活支援 (実践編　第２章C)	地域生活支援について理解する。 キーワード：就労継続支援（Ａ型※・Ｂ型）事業所、リカバリー ※ Ａ型について自身で調べること。	教科書の事業、用語の意味を理解した上で、教科書の事例から、地域生活支援の展開について整理する。事例におけるＡさんのジェノグラムの作成、学習者の自由なイメージによるＡさんの生活史の作成は「精神保健福祉援助演習Ｃ」の第２回在宅学習のポイントで扱う。
8	ひきこもり・家族支援 (実践編　第２章D)	ひきこもり・家族支援について理解する。 キーワード：ひきこもり、心的外傷後ストレス障害（PTSD）	教科書の用語、支援の視点を理解した上で、教科書の事例から、ひきこもり・家族支援の展開について整理する。
9	児童虐待 (実践編　第２章E)	児童虐待の支援の実際について理解する。 キーワード：児童福祉法、児童虐待防止法、児童相談所	教科書の法律の概要および支援機関の機能を理解した上で、教科書の事例から、児童虐待の支援の展開について整理する。
10	スクールソーシャルワーク (実践編　第２章F)	スクールソーシャルワークの意義と展開について理解する。 キーワード：アウトリーチ、不登校、就学援助制度、生活困窮者自立支援法	教科書の事例からスクールソーシャルワークの支援展開過程と支援制度について理解する。

	アルコール依存症の回復途上における支援 (実践編　第２章G)	アルコール依存症者の支援の実際について理解する。 キーワード：アルコール依存症、断酒、AA、断酒会、家族教室	教科書の用語の意味を理解した上で、教科書の事例から、アルコール関連問題の特徴、自助グループの役割、アルコール依存症者本人および家族への支援について整理する。
11	認知症 (実践編　第２章H)	認知症高齢者の支援の実際について理解する。 キーワード：中核症状、周辺症状、徘徊、自己決定	認知症の特性について理解した上で、教科書の用語の意味を抑え、教科書の事例から、認知症本人とその家族に対するソーシャルワーク実践、“かかわり”のあり方について整理する。
12	アウトリーチ (実践編　第３章A)	アウトリーチによって地域生活を支援する精神保健福祉士の役割について理解する。 キーワード：アウトリーチ、相談支援事業、ホームヘルプ、支援（援助・ケア）計画、ケア（支援）会議、グループホーム（共同生活援助）、地域活動支援センター、ピア、日常生活自立支援事業	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例において、アウトリーチ支援導入が判断された理由について考察し、ケアマネジメントのプロセスに従ってアウトリーチ支援がどのように展開されるのか整理する。教科書のACT（包括型地域生活支援）についても整理する。
13	ケアマネジメント (実践編　第３章B)	支援対象者の持ち味を活かしたケアマネジメントについて理解する。 キーワード：ケアマネジメント、リンキング、障害者ケアマネジメント、「障害者ケアガイドライン」、障害者総合支援法、ピアサポート	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例から、包括的・総合的な生活支援の具体的プロセスについて整理する。
14	チームアプローチとネットワーキング (実践編　第３章C)	チームアプローチとネットワーキングによる支援の有効性について理解する。 キーワード：医療観察法、処遇計画、ダブルケアマネジメント（DCM）、保護者規程、ソーシャルサポートネットワーク	教科書の用語を理解した上で、教科書の「医療観察法」による入院から「地域処遇」に至る流れの事例から、チームアプローチとネットワーキングによる支援のあり方について整理する。
15	協議会の活用・調整・開発 (実践編　第３章D)	協議会について理解する。 キーワード：コミュニティワーク、精神保健ボランティア	教科書の用語を理解した上で、協議会の活用・調整・開発をどのように実施しているか整理する。

■レポート課題

１単位め	**※スクーリング事前レポート（所定の期日までに提出）** あなたがイメージするソーシャルワーカーの仕事をあげ、どのような専門性が必要か述べてください。
２単位め （実習受講者）	**※スクーリング事後レポート（スクーリング受講後の所定の期日までに提出）** 精神障害者が働きやすい職場環境や就労形態について述べてください。
２単位め （実習免除者）	**※スクーリング事後レポート（スクーリング受講後の所定の期日までに提出）** ※実習免除者のみ２単位めはこちらの課題に取り組んでください。

	実習免除が認められた自身の相談援助の業務経験から、利用者の権利擁護の重要性について、実践例を具体的にとりあげ、あなた自身の考えを具体的に述べてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

精神障害者支援を援助方法から歴史的に振り返ると、直接個人に対するアプローチから、次第に集団へのアプローチ、地域へのアプローチと広がりを見せてきました。地域ごとに条件が異なりますが、精神保健福祉士の仕事を想定し、支援・援助の方法とその留意点、基本的視点を論じてください。

【2 単位めアドバイス（実習履修者）】

精神障害者は長らく医療の対象とされていましたが、1993 年「障害者基本法」の中で福祉の対象とされました。その様な状況において、多くの精神障害者が地域で暮らし働き社会参加するようになってきました。地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、ハローワークの利用なども含め論じてください。

【2 単位めアドバイス（実習免除者）】

自身の相談援助業務などの業務経験に基づいて、実践例とあなた自身の考えを具体的に記述してください。その際、自身の業務経験における問題点や課題を挙げ、何故うまくいかなかったのか、考えられる対応策（実際の実施の有無を問いません）を含めた振返りを行ってください。

■レポートの提出方法

１） １単位につき、１冊のレポート提出台紙を使用してください。

２） １単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右 40 字×30 行×2～4 枚まで可。

３）教員名の欄は記入しないでください。

４）各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』参照）。